

営農情報（水稲）

令和3年4月発行

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

5月下旬頃から令和3年産米の育苗作業が始まります。“苗半作”と昔から言われるように、良質米の安定生産のためには健苗の育成が重要です。

～ポイント～

- ◎田植予定日から逆算して、種子の浸漬日や播種日を決めます。
- ◎高温障害を避けるため、田植は6月20日以降に行います。

1 種子消毒

(1)種籾10kg当たり下記農薬の混合薬液20ℓを用い、24時間浸漬します。

薬剤名	使用濃度（種籾10kg当たり使用量）
テクリードCフロアブル	200倍（100ml）
スミチオン乳剤	1000倍（20ml）

※いもち病対策を強化する場合は、ベンレート水和剤（種籾10kg当たり 20g）も混合します。

(2)浸漬中は薬液を2～3回かき混ぜ、全体に薬液がまわるようにします。
浸漬後は水洗いせず、そのまま催芽します。

(3)種子消毒に使用した薬液は、絶対に河川・クreek等に流さないでください。

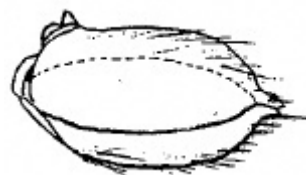
2 浸種及び催芽

(1)種子消毒後、水に3～4日間浸種します。

(2)催芽（芽出し）の程度は、鳩胸程度が適当です。また、種籾が酸素不足にならないように、**浸種中の水は毎日交換する**とともに、種子の芽出しをそろえるため**上下を入れ替えます**。

(3)直射日光が当たると発芽ムラや高温障害の原因になるため、直射日光を避けた場所で浸種を行ってください。

この程度まで催芽させる（鳩胸程度）→



3 播種及び出芽

- (1) 1箱当たり催芽粃1合5勺(約170g)～1合7勺(約190g)となるよう播種量を調整します。厚播きすぎると苗が軟弱になり活着が悪くなります。
- (2) 播種時にかん水を兼ねて、苗箱20箱に対し水10ℓ当たりタチガレエースM液剤20ml(500倍)を混ぜて、かん注します。
- (3) 健苗育成及び育苗中の病害発生予防のため、**平床出芽を基本**として下さい。

平床出芽

積み重ねより1～2日出芽が遅れますが、高温やカビ等の育苗障害が出にくく、健苗が育成できます。

1. まとまった雨が降っても、冠水しないような育苗場所を選定します。
2. 苗箱を並べる用地を水平にします。
3. 田畑に並べる場合、ビニールを敷き、根が地面に下りるのを防ぎます。
4. 厚さ1～3cmの台木またはパイプをわたすことで、苗箱を水平に保ち、水分の偏りをなくします。
高低差があると、高い部分は乾燥しやすくなり、出芽や生育が不良となります。
5. 播種時に水をたっぷりかけておきます。
6. 苗箱を並べます。
7. 寒冷紗を二重に被せ、苗長4～5cmになったら完全に外します。

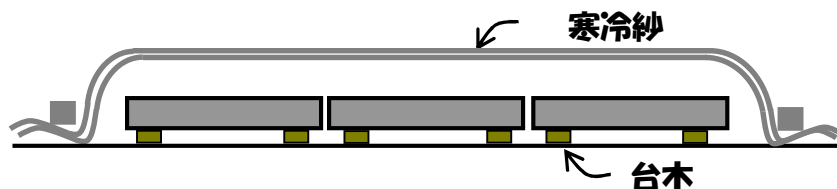


図 平床出芽の方法

- (4) 水管理は、天候によりますが、寒冷紗二重の期間は1日1～2回、寒冷紗除去後は1日2～3回十分にかん水します。天候や床土の種類によっては乾きやすく、水枯れが発生する場合がありますので、十分注意します。

注意

「元気つくし」「ツクシホマレ」は苗が伸びやすいので、「ヒノヒカリ」よりも1～2日早めに寒冷紗を除去するよう心がけて下さい。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!